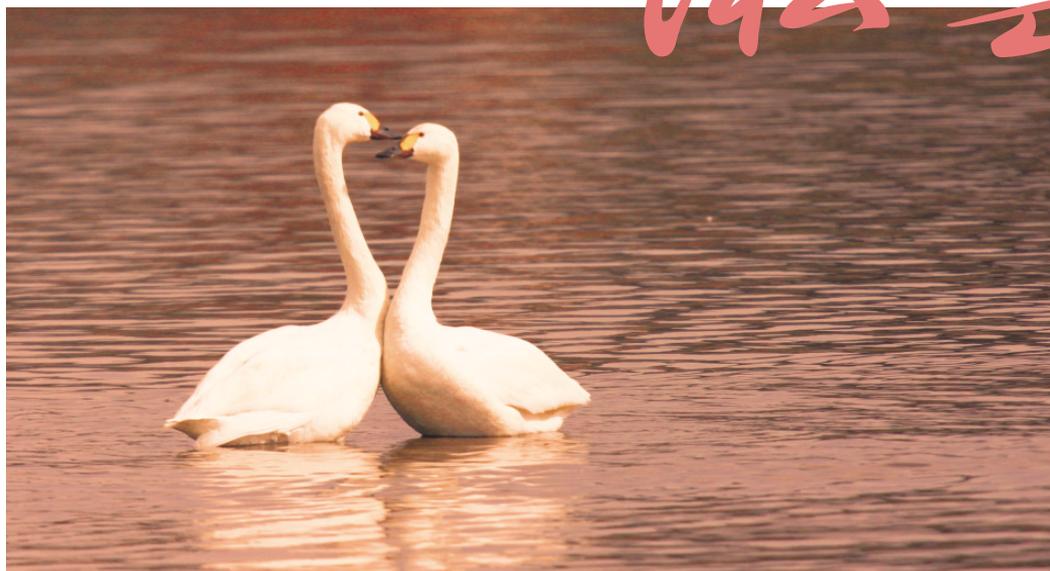


淞雲



(春の予感)

第7号

学術情報リテラシーは、大事ラシー

- 2 ● 検索講習会と情報メディアルーム (本館)
- 4 ● 情報教育では何を学ぶべきか 小林 聡
- 5 ● 学術情報リテラシーテキスト刊行
- 学術情報リテラシー教育の現状 (医学分館)

- 7 ● 附属図書館企画展示
「在村医の画人的素養—大森不明堂三楽が描いた掛軸とスケッチ—」
- 8 ● 2007年 利用可能な電子ジャーナル一覧
- 9 ● 「教育者ラフカディオ・ハーンの世界」刊行
- 10 ● しまだい資料探訪 (5) 『堀文庫』 田中則雄
- 12 ● 本学教員著作等寄贈資料
- 13 ● 読みたい本, ありますか
- 14 ● 患者図書室「ふらっと」のいま
- 15 ● 出張報告
- 18 ● 図書館からのお知らせ
選書ツアー / 学推会から図書の寄附 / シーボルトレプリカ / 中学生ボランティア
中四国地区研究集会 / リユース市 / 八雲文庫室 / 大学紀要・官報の廃棄とDB検索
オンデマンド講習会 / 県内図書館横断検索システム / プリペイドカードのコピー機
学外者個人からの文献複写申込み / 医図懇総会



学術情報リテラシーは、 大事ラシー

情報リテラシーとは、情報を操作、活用できる能力のことで、狭義には「コンピュータリテラシー」とも呼ばれます。大学の授業にもある、パソコンの基本操作、簡単なソフトウェアやメールの利用、表現としてのプレゼンテーションなどがそうです。

しかし、インターネットが普及した今日では、パソコンの操作だけでは不十分です。Web上にあふれる膨大な情報の中から、必要な情報を効率よく検索し、加工し、表現できる「情報力＝学術情報リテラシー」は、今や大学生にとって、一般教養や外国語を学ぶのと同じように大事なことと考えられます。それは社会人となってからも役に立つ能力です。

図書館は、大学の中の情報収集、提供の拠点として、電子ジャーナルやデータベースの整備を進めていますが、それを利用するユーザの教育が、情報の加速に追いついていません。現在、島根大学では学術情報リテラシー教育のためのテキストを作成中です。図書館も資料や情報を提供するだけでなく、教育機関である大学の1セクションとして、来年度からはこのテキストを利用し、利用者教育に積極的に取り組んでいく予定です。学術情報リテラシーの第一歩として、まずは図書館をフルに利用できるようになりましょう。

本館

■学術情報リテラシー講習会の実施 (平成18年4月-12月)

図書館では、定期講習会と、利用者の希望に応じて行う講習会を、年間を通して実施しています。定期講習会の内容としては、前期はOPAC、図書の探し方、新聞の探し方など基本的、初歩的なものを、後期はこれに加えて、学部高学年、院生向けに、データベースや電子ジャーナルの使い方に関する高度な内容の講習会も企画しました。残念ながら後期は参加者がわずかでしたが、授業やゼミなどを対象に要望に応じて講習内容を設定するオンデマンド講習会では、多くの参加者がありました。レポートや論文作成の際に、データベース検索を知っておくと大変便利です。今後も講習会を充実していきますので、多数の方の参加をお待ちしています。

■定期講習会

内 容	開催月	対象者	参加者数
図書館ツアー	4・5月	学部学生	11
OPAC利用説明会	5・11月	学部学生	6
図書の探し方(和書)	5・6・7・11・12月	学部学生・大学院生全般	10
新聞記事の探し方	11月	学部学生・大学院生全般	0
雑誌論文の探し方 入門編 和雑誌	5・6・7・11・12月	学部学生・大学院生全般	29
雑誌論文の探し方 中級編 理系	5・6・7・11・12月	学部学生・大学院生全般	21
雑誌論文の探し方 中級編 文系	5・6・7・11・12月	学部学生・大学院生全般	20
電子ジャーナル	11月	学部学生・大学院生全般	0
PubMed:医学	10月	学部学生・大学院生全般	2
PsycINFO:心理学	11月	学部学生・大学院生全般	0

判例体系:法学	10月	学部学生・大学院生全般	0
AGRICOLA:農学	11月	学部学生・大学院生全般	1
MLA:言語学	11月	学部学生・大学院生全般	0
ERIC:教育学	12月	学部学生・大学院生全般	1
MathSciNet:数学	12月	学部学生・大学院生全般	0
合 計			101

■オンデマンド講習会(授業を含む)

対 象 者	内 容	実施日	参加者数
法経学科 1回生 (授業)	図書館概要説明, OPAC検索法, 図書館利用法	4・5月	94
電子制御システム学科 1回生 (授業)	図書館概要説明, OPAC検索法, 図書館利用法	4/20・27	83
農業生産学科 2回生 (授業)	図書館概要説明, OPAC検索法, 図書館利用法, 情報検索	4/27	38
教育 3回生 (廣兼先生)	OPAC, WebcatPlus, NDL-OPAC, CiNii, MAGAZINEPLUS, Webによる文献複写申込方法	5/29	4
法文 集中講義の受講生の一部 (大澤先生)	朝日新聞「聞蔵」, 朝日・読売・毎日新聞 (CD-ROM版), 法令データ提供システム, 判例体系, 法律判例文献情報	8/3	5
法文 言語文化学科 3回生 (田中先生)	OPAC利用説明会 & 図書館ツアー	10/13	50
法文 政治学ゼミ 3回生	雑誌論文の探し方 中級編 文系	11/14	6
教育 臨床心理学(肥後先生)	CiNii, MAGAZINEPLUS, Current Contents Connect, PsycINFO, Shimane LINKSを使った文献の入手方法	11/22	11
生物資源 生物環境 4回生 (竹山先生)	電子ジャーナル, 雑誌論文の探し方 入門編	11/24	4
法文 言語文化学科 3回生	MLA	11/30	2
法文 法学科 4回生(松本先生)	判例の探し方(判例体系データベース), 法学文献の探し方(CiNii, 法律判例文献情 報データベース)	12/5	13
合 計			310

■講習会のアンケートでは

①開催時期と時間について:

適当であったという意見がほとんどでしたが、前期の講習会では、もっと早い時期にやってほしかったという意見もありました。

②何が参考になったか:

本の探し方, 国会図書館の新聞検索, それぞれのデータベースの使い方 (WebcatPlus, CiNii, Scopusなど), 論文検索の際にどのツールを使ったらよいか, など。

③今後どのような講習会を受けたいか:

電子ジャーナルなどネット上で記事や論文の全文を閲覧する方法を知りたい, 分野ごとの文献情報の検索の仕方, 入手方法を知りたい, という回答が多数ありました。



このほか、データベースやOPAC(蔵書検索)を講習会で初めて使い、その便利さに気づき、自分でも使えそうだという感想が多くありました。また、図書館以外の場所でポスターを見たり、教員にすすめられて参加したという学生がいたのは、大変うれしいことです。講習会は希望に応じていつでも開催しますし、カウンターでも随時質問を受けています。レポート作成や資料調査などでわからないことがありましたら、気軽に職員に尋ねてください。

■情報メディアルームは満員御礼

図書館1階に情報メディアルームが開設されて、もうすぐ1年が経とうとしています。総合情報処理センターの図書館分室なのですが、開館時間中は開放しており、31台のパソコンが利用できます。いつも大盛況で、席を確保するのに学生のみなさんは大変なようです。



図書館へ入ると、まずはメディアルームへ直行、あるいは館内のパソコンを探す、という方が増えてきているようです。職員の中には、ゲームセンターになるのでは？と危惧する声もあったようですが、みなさん真面目に履修登録、レポート作成、情報検索などで活用していた

ています。また、今や利用者570万人といわれる「ミクシィ (mixi)」（ソーシャル・ネットワーキング・サービスのひとつ）のページを開いて、一生懸命日記（ブログ）を書いている学生の姿もよく見かけるようになりました。息抜きがてら学習といったところでしょうか。いつも熱気ムンムンのこの部屋ですが、夏はエアコンがあまり効かないので暑く、冬は効きすぎて暑いので、大変申し訳なく思っています。

プリントアウトはプリペイドカード式プリンターへ。こちらも利用が増えています。

この部屋の忘れ物トップ3は「フラッシュメモリ」「フロッピー」「プリペイドカード」です。取りに来ない方が多いのですが、大事な情報ではありませんか？

ここでは、図書館主催の学術情報検索講習会も行っています。プロジェクターとスクリーンを使って説明しますが、手元のパソコンを使い、実習しながら講習会ができるので便利です。今後も講習会を充実していきますので、ご参加をお待ちしています。

情報教育では 何を学ぶべきか

総合情報処理センター 小林 聡

コンピュータが一般家庭に浸透し始めたきっかけとして、おそらく1995年のMS-Windows 95の登場が挙げられるだろう。加えてInternet Explorerの登場により、Internet利用の敷居が低くなったことも忘れてはならない。また、2003年には高校普通科目として「情報」が新設されており、2006年にはその科目を受けた第一期生が大学へ入学してきた。

このような背景から、今日、島根大学の学生に「あなたはコンピュータを使えますか？」と尋ねれば、大半の学生は「使える」と答えるだろう。

だが、少し待ってほしい。「コンピュータを使える」とはどのような状態をいうのだろうか？ ワードプロセッサや表計算ソフト、あるいはプレゼンテーションソフトを使えれば、コンピュータを使えると言って良いのだ

だろうか？ それでコンピュータのことや情報処理とはどういうことなのかを理解していると言って良いのだろうか？ コンピュータは紙とペンの代わりに過ぎないのだろうか？あるいは、Internetの検索エンジンがどのような原理で動いているのかを知らずに、的確にあるいは効率よく検索が出来るだろうか？そして、情報教育では、何を学ぶべきなのだろうか？

言語学に「サピエ=ウォーフの仮説」と呼ばれるものがある。大雑把に言ってしまうと、「言語が、世界についての我々の認識を制限する」という仮説である。例えば虹の色を例にして説明しよう。日本語は、虹の色について七つの語彙を持っている。つまり、日本語使用者にとって、虹は七色なのだ。だが英語の場合は六色の語彙を持ち、ネイティブ・アメリカンのある言語では三色の



語彙を持っているという。では彼らにとって、虹はいくつの色からなっているのだろうか？

コンピュータについても同じ事が言える。コンピュータの流儀の考え方や、コンピュータに関連する語をできるだけ深く理解することは、コンピュータをよりよく理解し、よりよく使うための必須の素養である。「サピエ=ウォーフの仮説」ではないが、あなたがコンピュータについてどれだけのことを理解しているかが、あなたがコンピュータで何をできるのかを制限すると言えるだろう。

では、コンピュータのどのようなことがらについて理解する必要があるのだろうか？

TRONを推し進めている東京大学の坂村教授が、以前ある本で、このような論を展開していたように記憶している。「ユーザ・インタフェースには二種類ある。一つは、習熟する必要がなく簡単に使えるが、仮りに習熟したとしても出来ることは変わらないもの。もう一つは、楽器のように習熟する必要があるが、習熟すればそれだけ多彩な使い方の出来るものである。」

例えば、unix系のコマンドライン環境で、個々のコマンドあるいはコマンドの多彩な組み合わせをコンピュータに与える時には、個々のコマンドが何を入力として、

何を行ない、何を出力するのかを、利用者は考えることになる。これは表計算ソフトなどで関数やマクロを使う場合、あるいは検索エンジンを使う場合も同様だ。これらは坂村教授の言う「習熟が必要だが多彩な使い方が出来るもの」の例ではあるが、このあたりが、コンピュータについてどのようなことがらを理解する必要があるのかを判断するヒントになる。

さて、このようにコンピュータについての理解を深めて使っていると、ある感覚を味わうことがある。ながったらしく言えば、「今、私はコンピュータを、私が意図したように動かしている」という感覚だ。これは、楽器を演奏しているとき、あるいは自動車を運転しているときなどの感覚に似ていると言えば想像できるだろうか？

情報教育は、上辺をなぞるだけでなく、出来るならば学習者がこの感覚を味わえるようになる内容であってほしい。また、鳥根大学の学生の皆さんには、ぜひこの感覚を味わえるように、コンピュータについての理解を深め、また使えるようになってほしい。そうなった時、あなたははっきりと、「新しい道具を手に入れた」のだと理解できるはずだ。

(こばやし さとし)



「学術情報リテラシー:情報活用能力の向上のために」3月刊行

より実践的な情報活用能力を身に付けるための教材として、総合情報処理センターと図書館が協力して、学術情報リテラシーのためのテキストを制作しました。

図書館と大学の情報部門が連携して取り組んだこのプロジェクトは、他大学には前例のないものであり、「情報リテラシー」という概念を幅広い視点から捉え、統合されたテキストとなっています。内容は、パソコンやネットワークの基礎知識からアプリケーションソフトの操作方法、学術情報を探索するためのツールの活用方法にいたるまで、幅広い項目が網羅されています。

またこのテキストは、冊子体だけでなくWeb版とも連動しています。情報環境の変化や授業内容の改変にも柔軟に対応できるよう、Web版で内容を随時更新していきます。日常の情報収集からレポート・論文作成まで、学生生活のあらゆる場面で活用できる1冊です。



医学分館

■医学部の情報関連教育

医学科においては、1年次に専門基礎科目として「パソコン演習」が開講されており、パソコン初心者に対して基礎知識、基本的な操作方法、簡単なプログラム作成、応用ソフトの使い方、情報ネットワークの構成、電子メールとインターネットの利用方法を学びます。基礎教育科目として2年前期に「情報科学概論」、後期に「情報科学演習」がいずれも必修科目として開講され、コンピュータの操作方法から統計解析の基本及び統計ソフトの使用法を習得する内容となっています。また、3年前期には、専門教育科目社会医学系として「医療情報学」が開講されています。

ここでは、医療情報の取扱いを巡る歴史と現状、病院情報システムの概要について学ぶほか、情報セキュリティや知的データ処理など医療を支える様々な情報技術について学びます。

看護学科でも同様に、基礎教育科目として1年前期に「情報科学概論」、後期に「情報科学演習」、2年後期には「看護情報学総論」が開講されています。情報科学の医療・看護への応用や医療情報システムの理解、その中での看護の位置づけを知ることを目標としています。4年後期には「看護情報システム論」があります。最新の看護情報システムを理解し、臨床・地域看護、看護教育・研究に応用する技術を習得し、システムの企画、開発から運用、評価まで広く対応できる機能を養います。また、看護学科棟2Fに情報科学演習室がありパソコンが多数設置されており、学生は入室カードを使って入り、利用することができるようになっています。



■医学分館の学術情報リテラシー教育

医学分館では学術情報リテラシー教育に力を入れており、次の3つに分類できます。

1) 医学科、看護学科の授業

・医学科3年生講座等配属時の文献検索講習会

特別系授業「講座等配属」において実施しています。ここでは、OPAC、電子ジャーナル、医中誌Web、PubMed、リンクリゾルバー（データベースの検索結果から電子ジャーナルなどにたどりつくためのツール）について説明し、その後医中誌Web、PubMedの演習をします。本年度の参加者は67名と、対象者の80.7%が参加しています。

・看護学科授業「看護研究の基礎」

看護学科2年生の授業「看護研究の基礎」の中で、講義と演習を担当し、医中誌Webの検索方法の習得、文献を利用するための基礎知識、図書館の基本的な利用法を説明しています。

・看護学科授業「原書講読」

看護学科3年生の授業「原書講読」において、看護関連データベースCINAHLの検索指導を行っています。CINAHLを検索し、各自のテーマに沿った英語文献を入手することを目的としています。

2) 図書館企画の講習会

・文献検索講習会（看護学科4年生）

看護学科4年生を対象に、図書館の利用案内、OPAC(蔵書検索)の使い方、データベースの操作法(医中誌Web、CiNii)、学外からの文献の取寄せ方法などについて指導を行います。

・文献検索講習会（大学院修士課程）

大学院修士課程看護学専攻1年生を対象に、ホームページの機能紹介、医中誌Web、CINAHLの機能全般について解説を行います。

・電子ジャーナル説明会

電子ジャーナルの検索方法や、検索機能を紹介します。

3) 看護協会との連携

島根県看護協会主催「看護研究II」研修会において、医中誌Webによる文献検索方法の操作を説明します。情報科学演習室において実際にパソコンを操作してもらい、自分のテーマに沿った文献を見つけるための演習を行います。

講習会名	開催月	対象者	参加者	内容
図書館利用説明会	6月	講座職員	14	OPAC検索法、文献の入手方法、図書購入方法等
CINAHL説明会	7～8月	大学院看護学専攻1年	8	CINAHL
医中誌Web説明会	8月	栄養管理室職員	5	医中誌Web
文献検索講習会	10～12月	医学科3年講座配属者	67	PubMed、医中誌Web OPAC検索法、 文献の入手方法等
電子ジャーナル説明会	12月	医学部教職員 学部学生・大学院生	14	電子ジャーナル利用方法
授業連携	5～6月 10～11月	看護学科3年「原書講読」 看護学科2年 「看護研究の基礎」	72 176	PubMed、医中誌Web OPAC検索法、文献の入手 方法、図書館ツアー等

在村医の画人的素養

— 大森不明堂三楽が描いた掛軸とスケッチ —

平成 18 年 10 月 12 日 (木) ～ 10 月 15 日 (日) 於：医学分館 1 階分館長室

江戸時代後期、鳥根の医家大森家が収集・保存した、医学書を核とする史料コレクション「大森文庫」では、出雲キャンパス学園祭「くえびこ祭」に協賛して、2005年に続き、2006年展示会を開催しました。

大森不明堂三楽（1771-1857）は、寛政 10 年（1798）、28歳で医家となる以前に画を学んだ時期があり、生涯にわたり多くの画を描いています。また、書きつづられた日記にも多くの挿絵が含まれています。今回の展示会では、「医家の教養」をテーマに、江戸時代鳥根の知識人として、大森不明堂三楽が描いた掛軸 11 点を中心に、史料のイラストをパネルにして展示しました。

この企画は、大森文庫研究者である出雲市立窪田小学校長梶谷光弘氏、および大森家とその関係者のご協力によるものです。展示会にあたり、前日の 11 日には、医学部および図書館関係者を対象に梶谷先生の解説による内覧会を行い、22 名の参加がありました。期間中の来場者には、梶谷先生解説の、11 ページにわたるパンフレットを配布しました。

期間中は、大森家の地元安来市の行政や公民館からの団体鑑賞など、多くの来場者がありました。アンケートでは「大変よかった」、「鳥根にも素晴らしい医師がおられ感動。医学を志す人にしっかり知ってほしい。」「公的財産として地域の方々に知ってもらい、出雲の人的、物理的財産を広めることができる」、「今後も企画してほしい」などの感想が寄せられました。また、郷土史家 3 名の方から、鳥根の華岡青洲門人に関する情報や資料をいただきました。



(会場風景)

医学分館では、本展示会ののち、大森家に対して、長年にわたる大森文庫へのご協力に感謝の意を表わすため、感謝状を贈呈しました。

大森文庫 2006年展示会

在村医の画人的素養
— 大森不明堂三楽が描いた掛軸とスケッチ —



日時 2006年10月12日(木)～15日(日)
午前10時～午後5時

会場 鳥根大学附属図書館医学分館
7階 医学分館長室

江戸時代後期、母里藩の在村医であった大森不明堂三楽は医療のかたわら画をたしなみ、大森文庫史料には多くの画やイラストが含まれます。展示会では、不明堂三楽が描いた神農像、仲景像、孔子像などの掛軸、および日記に描かれているイラストをパネル展示いたします。皆様のご来場をお待ちしています。





鳥根大学附属図書館医学分館
お問い合わせ：医学分館カウンター(0853-20-2004)

入場無料

入場者数	215名
展示内容	掛軸 11点 (華岡青洲像, 不明堂像, 不中庵像, 孔子像, 神農像, 張仲景像, 鐘馗像, 虎, 宝珠像, 大黒像, 坐頭の争い) イラストパネル 13点 解説パネル 6点 文庫史料 22点 参考展示品 7点

2007年 利用可能な電子ジャーナル

商品名	収録誌数	内 容	データ収録範囲
American Chemical Society	コア 24 誌	American Chemical Society 刊行のジャーナル（生化学関連）	1996 年～最新号
American Physical Society	7 誌 (+Index 計 3 誌)	American physical society 発行のジャーナル（物理学関連）	創刊年～最新号
Amrican Mathematical Society (松江キャンパスのみ)	9 誌	American Mathematical Society 発行のジャーナル（数学）	1996 年～最新号
Blackwell: Synergy	753 誌	人文社会科学系，理工医学系	1997 年～最新号 (一部除く)
British Medical Journal	28 誌	BMJ 社発行の医学系ジャーナル	タイトルで異なる
Elsevier: Science Direct	約 1,800 誌	エルゼビア発行の科学・技術・医学・社会科学分野のジャーナル	1995 年～最新号
IEEE: CSDL	IEEE 雑誌 23 誌 プロシーディングス 1,700 誌(予定)	IEEE Computer Society 刊行のコンピュータ科学，IT 関連の IEEE 雑誌およびプロシーディングス	雑誌 創刊年～最新号 プロシーディングス 1995 年～最新号
Karger Online	75 誌	Karger 社発行の医学系ジャーナル	2000 年～最新号
Lippincott Williams &Wilkins: Fixed 100	100 誌	医学・看護学・ヘルスサイエンス分野のジャーナル	概ね 2000 年～最新号
Nature Group	10 誌	① Nature ② Nature Biotechnology ③ Nature Cell Biology ④ Nature Genetics ⑤ Nature Immunology ⑥ Nature Medicine ⑦ Nature Neuroscience ⑧ Nature Structural & Molecular Biology ⑨ Nature Materials ⑩ EMBO	1997 年～最新号 (Nature は 1987 年～最新号)
JSTOR Art & Science I	約 170 誌	The Andrew W. Mellon 財団が提供する雑誌の電子アーカイブサービス。創刊号からのバックナンバーを収録。最新号は含まれない。	タイトルで異なる
JSTOR General Science	24 誌		
Oxford University Press	約 170 誌 (国内販売可能な全誌)	OUP 発行のジャーナル。ほぼ全分野をカバー	創刊号～最新号
PNAS	1 誌	「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America」の電子ジャーナル	1990 年～最新号
ProQuest: ARL, ML	約 2,000 誌	ProQuest 社を通じて提供される電子ジャーナルパッケージ。人文社会学・医学系を収録	タイトルで異なる
Science	1 誌	「Science」の電子ジャーナル	1997 年～最新号

Springer: LINK	約 1,200 誌 (2007 年新刊と一部雑誌は含まれない)	Springer-Verlag 及びグループが発行するジャーナル	創刊号～最新号
Thieme: Medical Collection	33 誌	George Thieme Verlag 社発行の医学系ジャーナル	概ね 2000 年～最新号
Wiley: InterScience	約 300 誌	Wiley 社発行の科学、技術、医学系電子ジャーナル	1997 年～最新号
PsycARTICLES	50 誌	米国心理学会が提供する心理学とその関連分野の電子ジャーナル。	概ね 1988 年～最新号

これらの電子ジャーナルを効率的に検索、利用するためのツールとして、「e-Journals Access Page」があります。「淞雲」第 6 号でお知らせしていますのでご利用ください。
第 8 号では「2007 年 利用可能なデータベース」についてお知らせします。



2006年11月出版!

教育者ラフカディオ・ハーンの世界
—小泉八雲の西田千太郎宛書簡を中心に—

島根大学附属図書館小泉八雲出版編集委員会
島根大学ラフカディオ・ハーン研究会 共編

—昨年秋（平成 17 年 10 月 1 日～ 9 日）に島根大学で開催しました企画展示、講演会及びシンポジウム「教育者としての小泉八雲」の成果をベースとした図書をこのほど刊行しましたので紹介します。

島根大学附属図書館では、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲 1850-1904）と親交のあった西田千太郎（島根県尋常中学校教頭）宛自筆書簡を 45 通所蔵しています。原資料の企画展示を契機に、劣化が進行している書簡の電子化による保存措置をとりました。また、当該資料の利用促進を図るため、広島大学、富山大学、東京大学、松江市立図書館等所蔵のハーン自筆書簡のカラー画像を併せて図書に収録し、時系列に配列してストーリー性を持たせました。英文活字版ではヴァージニア大学所蔵分も追加し、全点について本学名誉教授常松正雄氏の労作なる日本語新訳を付しています。図書のテーマとして、ハーンのエッセイとしての側面にスポットをあて、彼が松江時代に島根県私立教育会で行った講演要旨訳、講演会・シンポジウム成果である論文集や来日当時の写真など多数収録しています。

ハーンのエッセイや、生徒や同僚、書簡を通じた人的交流を通して、日本固有の文化と西洋文明摂取の流れの中での鋭い観察や文明批判や世界観、家庭人としての側面、また、時代を経ても変わることのない教育観や想像力の重要性などをうかがい知ることができます。

本書の編集・出版は、書簡所蔵機関や民間のハーン団体である「八雲会」の研究者グループ、地元出版社のワンライン、早稲田大学・熊本大学・島根大学の研究者の方々との、1 年余りの協力体制により実現しました。先に出版した「絵図の世界」（平成 18 年 8 月刊）とともに、大学と地域社会連携による貴重な成果物であることを申し添えておきます。

しまだい資料探訪 (第5回)

堀文庫

田中 則雄
(法文学部 国文学研究室)

津和野町の堀幸清氏から1994年に島根大学へ寄贈された1,818冊に及ぶ書籍群が、本館第2貴重資料室に収蔵されている。堀家は古くから鉱山経営で知られた屈指の旧家で、その広大な庭園と旧宅によっても有名である。なお、書籍の発見と島大への寄贈の経緯については、鈴木亨「津和野堀家蔵 読本・実録類について」(「山陰地域研究(伝統文化)」第7号, 1991)に詳しい。

元来これらの書籍は、江戸から明治期にかけて津和野で営業した貸本屋で使用されたものであり、それが何らかの経緯で堀家の所蔵となったのである。特定の貸本屋の書籍が、これほどまとまった分量で残る例は少ない。

昔の貸本屋は、町の人たちにとって、日々の読書を支えてくれる大切な存在であった。即ち見料を取るという点は異なるが、現在の図書館に相当する地域の文化センターであった。

堀文庫の書籍群は、主に江戸時代の小説である〈読本〉と〈実録〉から成る。

〈読本〉は、江戸後期の本格的な長編小説である。立派な挿絵が施され、豪華な造本がなされるため制作コストが高くなり、個人で簡単に買える値段ではなかった。だから多くの人々は、貸本屋で借りて読んだのである。読本作者として最も著名なのは、江戸の曲亭馬琴と山東京伝であるが、やはりこの貸本屋でも、この二大巨頭の主要作品を置いていた。馬琴の『椿説弓張月』(1807-1811刊)、『南総里見八犬伝』(1814-1842刊)、京伝の『昔話稲妻表紙』(1806刊)、『梅花氷裂』(1807刊)などが



伝存している。ただし注目すべきは、この貸本屋が、馬琴・京伝以外の、従来マイナーと評されてきた作者(江戸のさえだしげる小枝繁・りゅうてい たねひこ柳亭種彦、上方のはやみ しゆんぎょうさい速水春暁斎・りつじょうてい きらん栗杖亭鬼卵など)の読本を、実に豊富に備えていたという点である。つまりそれだけ読者による需要があったことの証しであり、馬琴・京伝の名のみを挙げて〈読本〉を語るといって、文学史の教科書に見えるお決まりの記述が不適切であることを示している貴重である。



『南総里見八犬伝』の挿絵

〈実録〉は大家のお家騒動、敵討ち、盗賊の悪行など、当時の世間を騒がせた事件を小説化したものである。したがって印刷出版は禁じられてい

たが、書き写して読むことは許されていた。これも貸本屋の人気商品であり、店には多くの書写本が用意されていた。



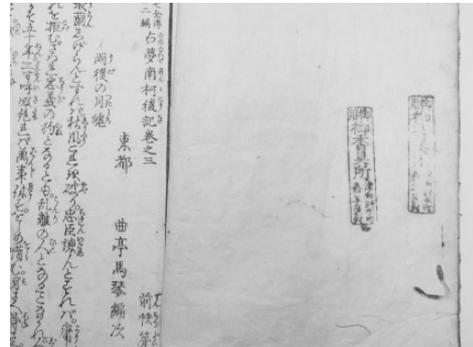
『釜淵賊禁秘誠談』（石川五右衛門の実録）

『邯鄲夢物語』（五代將軍徳川綱吉とその周縁の人物の話）、『赤城忠誠談』（赤穂浪士の話）、『慶安太平記』（由井正雪の話）、『釜淵賊禁秘誠談』（石川五右衛門の話）などと多彩である。〈実録〉は、実在の人物や事件に取材しながらも、虚構が混じり幾度も書写されて行く過程で、この‘尾ヒレ’がまた次の‘尾ヒレ’を生みながら、話はますます面白くなるという特徴がある。演劇や講釈を通じて、長く今日まで親しまれている話が多い。

ほかには〈軍記〉の類も豊富で、豊臣秀吉関係の『太閤真蹟記』『太閤鎮西軍記』、毛利・尼子時代の中国地方を描く『陰徳太平記』などがある。〈滑稽本〉のベストセラー『東海道中膝栗毛』も当然のごとく備えられていた。

書籍の中に「嘉年屋与兵衛」という貸本屋の屋号が見られる。嘉年屋の押した蔵書印に、「津和野本町／新古書物売買／嘉年屋与兵衛」というものがあって、貸本と同時に新刊・古書の売買も行っていたことがわかる。また、「御用／御香具所／津和野本町嘉年屋製」という印もある。昔の貸本屋は、他の商売との兼業で行う例が多かったが、この嘉年屋の店でも、香具を売りながら一方で貸本も並べていたものと思われる。ほかに、「津和野今市／玉屋作兵衛」という名も見える。書籍の中に

は、嘉年屋と玉屋と両方で使用された形跡を残すものもある。年代を示す書き入れも多く、嘉永(1848-1854)など幕末の年号と明治初年のものが混在している。



「御用／御香具所／津和野本町嘉年屋製」の印

書籍を開くと、読者による落書きが随所に見える。貸本屋に宛てて「見料が高い」「人に本を貸す大馬鹿」などと。貸す方も「落書き、又貸し御断り」、また「この悪さ書きは俵屋店の手代衆」と名指しで応酬。しかし双方とも憎しみを込めて書いているのではなさそうである。書籍に落書きをするのは褒められたことではないが、ユーモアが感じられて思わず笑えるものが多々ある。



貸本屋・嘉年屋与兵衛（かねやよへえ）の蔵書印、「見料が高い」という落書き

一方で、作品の中身に関わる真面目な書き入れもある。ある長編小説の本の余白にこう書いた読者がいる。「二人の登場人物について、話の最初の方では3カ月違いで出生したとあったのに、終わりの方では3歳違いになってしまっている。これは作者の不注意である」と。かなり丁寧に読む人であった。ほかにも作品への批評や感想を書き入れた例が見られる。

手垢で黒く汚れたり、破れてしまった書籍も多い。町の人々が八犬士、赤穂浪士、石川五右衛門などなど、江戸小説の世界に耽溺しながら、書籍を通じて、貸本屋という場を通じて、コミュニケーションを楽しんでいた様子がありありと浮かんでくる。

（たなか のりお）

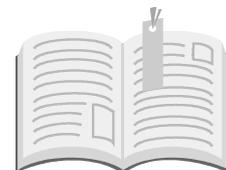
本学教員著作等寄贈資料紹介 (平成18年7月～19年1月受入)

ご寄贈くださいました先生方に厚く御礼申し上げます。
今後とも著作等を刊行の際には、図書館にご寄贈くださいますようお願いいたします。

居石正和 (法文学部)	近代日本における社会変動と法
加藤克夫 (法文学部)	西洋近現代史研究入門 [第3版]
渡邊貞幸 (法文学部)	日本の考古学 上・下
	出雲の考古学と『出雲国風土記』
三保忠夫 (教育学部)	藤原明衡と雲州往来
高瀬彰典 (教育学部)	コールリッジ論考
伊藤勝久 (生物資源科学部)	Social capital and development trends in rural areas
仙田久仁男 (生物資源科学部)	経済学における諸法則
林 弘正 (法務研究科)	児童虐待：その現況と刑事法的介入 [改訂版]
原田智明 (キャリアセンター)	就職筆記対策まるごと問題集
田中正弘 (教育開発センター)	The Cross-cultural Transfer of Educational Concepts and Practices : a comparative study
米原 智 (名誉教授)	造形への思索 画業60周年記念米原智画集
松塚豊茂 (名誉教授)	法句経を読む
岡崎勝彦 (名誉教授)	こだわり：時として知的緊張
濱田年騏 (名誉教授)	肉用牛生産とその新たな展開
山口清次 (小児科学)	新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患診療マニュアル
佐倉伸一 (附属病院)	周術期の神経障害：基礎的・臨床的エビデンスを踏まえて
小林祥泰 (病院長)	生活習慣病の最前線
	神経疾患最新の治療
	今日の治療指針：私はこう治療している 2006年版
	神経内科
	神経救急・集中治療ハンドブック
	内科学

三保忠夫著 **藤原明衡と雲州往来**

ISBN 9784305103680 笠間書院 2006.11



藤原明衡は平安時代の儒学者・文学者で、出雲守・式部少輔・文章博士・大学頭等を歴任した人物である(従四位下, 治暦2年(1066年)歿, 76,7歳)。北宋姚鉉撰『唐文粹』百卷を範として『本朝文粹』一四巻を撰述し、唐代『書儀』にならって往来物の嚆矢『雲州往来』二巻(または三巻)を編述した。『新猿楽記』一卷『本朝秀句』五巻などの著述もある。

栄耀栄華を極めた藤原道長・頼道の時代、しかし、華麗な王朝社会にも綻びの目立つ時代である。明衡の昇進は遅く、報われない人生であったが、親しく仕えた後三条帝の即位(治暦4年)と共に、一族からは式部大輔・式部少輔・大学頭・文章博士・東宮学士等を輩出することとなった。本書は、諸記録・作品の分析を通して明衡の生涯を明らかにし、『雲州往来』の中世、近世における享受の諸相を究明する。

本館・閲覧室 919.3/M117

Library Column



読みたい本, ありますか

資料整備を担当

この時期、試験・レポート・論文の仕上げなど、調査や資料収集のため、多くの方が図書館に足を運んでくださっています。座るだけであらゆる情報が入手できる情報検索PCという便利なものがある一方で、書架を巡りながら、面白そうな本を自分の目で探す、そんな楽しみも図書館にはあります。

■今年度(4月～1月)のベストリーダー

順位	本館	医学分館	小説
1位	固体物理学入門 / Charles Kittel	標準泌尿器科学 / 小磯謙吉	ハリーポッターと謎のプリンス
2位	分子細胞生物学 / H. Lodish	標準麻酔科学 / 熊澤光生ほか	ハリーポッターと不死鳥の騎士団
3位	日本の地質7：中国地質	標準神経病学 / 水野美邦ほか	ダ・ヴィンチ・コード
4位	ライフサイエンスのための物理化学 / James R.Barrante	標準産科婦人科学 / 桑原慶紀ほか	博士の愛した数式
5位	遺伝子解析の基礎 / 中山広樹ほか	解剖学図譜 / ネッター	野ブタ。をプロデュース
6位	細胞の分子生物学 / Bruce Alberts	標準血液病学 / 池田康夫ほか	かもめ食堂
7位	新編湖沼調査法 / 西條八束ほか	臨床解剖学 / Richard S. Snell	図書館の神様
8位	有機化学実験 / フィーザーほか	標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 / 鈴木淳一	陰日向に咲く
9位	最新土壌学 / 久馬一剛	標準外科学 / 松野正紀ほか	夜のピクニック
10位	ヴォート基礎生化学 / D.Voetほか	心電図トレーニング / 小沢友紀雄	重力ピエロ

上の表は、今年度貸出回数が多い図書のベストテンです。大学図書館には小説の類を置かないところもありますが、本館では「図書購入リクエスト」として、学生、教職員から希望のあったものは購入しています。今年度は、映画、ドラマの原作本が大人気です。上位にランクされたのは、壮大なファンタジーや新たな解釈で歴史の謎を解き明かすスケールの大きな物語で、ほかに「ヒストリアン」「中原の虹」などもワクワクしながら読めます。4位以下はページ数も少なく手軽に読めます。勉強ばかりでなく、恋に悩み、人生に悩む若者たちの等身大の物語です。同著者の「重力ピエロ」「アヒルと鴨のコインロッカー」など、ミステリーの中にファンタジーの要素があり、魅力的な登場人物は若者向けのオシャレな映画のようで、一気に読めてしまいます。

■図書購入リクエスト

平成17年度から、「図書購入リクエスト」というサービスを行っています。図書館に置いてほしい本を、ホームページから申込みすることができます。平成17年度は217冊、平成18年度もこれまでに126冊のリクエストがありました。学習用の図書だけでなく、小説本の希望もかなりあります。

館内を歩いていると、学生さんの「〇〇を読みたいんだけどなあ…」という声を耳にします。「それなら図書購入リクエストというのがあって、図書館で買ってほしい図書をパソコンで申込みするんですよ！」と喉のところまで出かけるのですが、盗み聞きしているようで…大きなお世話のようで…まごまごしているうちに、タイミングを逃してしまいます。「ああ…また図書館職員としての営業活動(?)に失敗してしまった。」と肩を落とします。リクエストされた図書が頻りに借りられていると、自分の力でもないのに、営業成績の棒グラフがちょっぴり伸びたようで嬉しくなります。リクエストの際や読後には、その本に関するエピソードなどもメールでいただければさらに嬉しいです。

図書館ホームページ > 申込み > 図書購入リクエスト (学生用) からどうぞ。
 学生だけでなく、教職員からのリクエストもお受けしています。結果は、図書購入リクエスト一覧でお知らせしています。



島根大学医学部附属病院 患者図書室「ふらっと」のいま

医療サービス課医療支援室長 土江 勉

患者図書室「ふらっと」は、病院の中で最も人通りが多い病院玄関から病棟に通じる廊下の一角にあり、休憩室と並んで病院のアメニティゾーンを形成しています。

平成17年2月の開設から平成18年12月末までに、18,232人の利用者と9,982冊の貸出利用、3,221件のインターネットでの検索利用申込みがありました。病院の中で本が借りられることは患者さんにとって意外なことのように、大変好評を頂いています。病室まで持ち帰ることも可能ですので、病院でのつらい闘病生活を癒す時間を提供できることは、担当室としても喜ばしいことです。また、専門医学書ほど難しくない、易しく書かれた医学書や闘病記なども、平成18年度は少し充実することができました。インターネットによる検索申込みも、月100件を越すほどになっています。

今、この小さな患者図書室が、患者さんに憩いの時間を提供しているだけでなく、患者さん自身が病気と闘うために、主治医と積極的に話し合い納得して治療を受けていただく、そのための必要な情報を得ることができる場所、そんな患者さんの期待に応える図書室となりつつあることを実感しています。

(つちえ つとむ)



(新しい看板を掲げる小林病院長と揮毫した山本副学長)

蔵書数 2,304冊 (平成19年1月現在)

医療関係		医療関係以外	
健康関連図書	686冊	一般図書	264冊
闘病記・医師 のエッセイ	352冊	新書・文庫	858冊
新書・文庫	86冊	児童書	58冊
健康雑誌	3誌	健康関連DVD	64枚
平成17年度受入	購入 473冊	寄贈	373冊
		出雲市立中央図書館から借用	500冊

2年を振り返って

担当司書 小林幸子

「ふらっと」がオープンして1月末で丸2年となります。図書室の存在もオープン当初と比べると随分知られてきているようで、日々たくさんの方に利用していただいています。

「ふらっと」所蔵の図書は、購入や利用者・職員からの多くの寄贈で、オープン時の3倍近い2,304冊になりました。

また、最近では利用者の要望に応じて開室時間を30分早めましたので、より利用しやすくなったと思います。利用者からも、「気晴らしになる」「入院中は暇なので助かっている」「病気が本がわかりやすくて良い」などたくさんのお言葉をいただき、

「ふらっと」が皆さんのお役に立っていることを実感しうれしく思います。スペースがなく書架が増やせない、図書の購入が年1回しかない、ボランティアが不足など、課題もたくさんあります。25㎡足らずの部屋なので、すぐには解決できない課題もありますが、これからも新しくわかりやすい医療情報を提供できるよう、また、利用者の方々の憩いの場所となるような図書室にしていきたいと思っています。

(こばやし さちこ)

(17年度に購入した出雲市地域図書)



アメリカ大学図書館研修に 参加して

資料整備主担当 小豆澤悦子

平成 18 年 11 月 13 日から 17 日まで、大学図書館と生協の共同研修プログラムで、米国カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) とスタンフォード大学図書館、大学生協の洋書取次店 COP (Co-op Online Pacific) Inc. を訪問させていただきました。

UCB では、Doe Library (院生、研究者対象の研究図書館) と Moffitt Library (学部学生対象の学習図書館)、そして 2 つの図書館を結ぶ Gardner と呼ばれる巨大な地下書庫を見学しました。

見学ツアーのスタートにあったのは、Library Book Store と呼ばれる、不用図書を販売している部屋でした。ちょっとした古書店のようです。昨年度から本学でも取り組みを始めたのですが、ここでは常設され、不用図書が当たり前のように販売されているのにまず驚きました。

Doe Library は研究者対象だけあって、図書館全体が美術館の如く美しく、机や椅子、ソファなどの備品も立派です。設備だけでなく、館内は静粛で、利用者マナーも良いように感じました。



(Gardner—いったいどのくらい広いでしょう)

巨大書庫は、書庫とは思えないほど明るく、検索端末やコピー機が置かれています。図書は研究室などに恒常的に置かれることはほとんどないため、図書館の役割は非常に重要です。膨大な蔵書のすべてをキャンパス内には保存できないため、使用頻度の低い資料について、さらに別の保存書庫も設けられているそうです。保存スペースの不足は、国内の大学図書館では頭の痛い問題です。増え続ける資料をいったいどうしたらいいのでしょうか。必要な資料はほとんど自館で揃えると豪語するスタッフの言葉や、端が霞むくらい広い書庫

を眺め、思わずため息が出ました。

学部学生の多い Moffitt Library は活気があり、鳥大のように賑やかです。ちょっと安心しました。Circulation カウンターにいるのはすべて学生アルバイトで、普段は深夜 2 時まで、試験期などは 24 時間開館しています。館内では携帯、飲食はもちろん禁止ですが、出入口付近に Café があり、開館時間に合わせて Open/Close しているそうです。

ガラス張りの Library Classroom (検索講習会室) では、スタッフが OPAC の講習会をしていました。これらの講習会も、「さあ、それでは始めます」というような肩に力が入ったものではなく、気軽に寄って聞いていけるようなフランクな感じがしました。専任スタッフが担当しているからこそできるのかもしれない。

スタンフォード大学では、スタッフとのミーティングの時間をとっていただきました。もともと予算規模が比較にならないのですが、学術図書については、大手出版社のものほぼすべてを自動的にオーダーするシステムがあるそうです。それだけに頼らず、スタッフも選書に力を入れています。教育・研究の現場に直接希望を聞きに行ったり、分野によってどのようなニーズがあるかを把握することも、重要な仕事と考えられています。

もちろんリポジトリ構築も進行中です。規模が大きいと、大学全体のものであるという共通認識を持つことが非常に困難だということでした。

COP では、図書館で発注した洋書がどのような処理、作業を経て手元に届くかを、業務に携わっているスタッフや現場を見ながら説明を受けました。洋書購入は国内代理店によるマークアップ方式がほとんどですが、この原価販売方式により、低価格で洋書を購入できるルートが確保されるようになりました。約 240 万件という Ingram の豊富な DB を利用しているため、ヒット率が高く納品も確実です。洋書購入を非常に身近に感じることができました。

両大学とも膨大な蔵書量と規模を誇り、本学とは比べものになりませんが、お会いしたスタッフのみなさんは堂々としていて、自分の図書館に誇りを持っているように感じられました。図書館は非常に充実した蔵書、コレクションを持ち、スタッフの使命は、学生や研究者たちが学習・研究を進めやすい環境を整えることと考えられています。学生たちも図書館を身近に感じ、よく利用していました。

最後になりましたが、今回の海外研修にあたり、お世話いただきました皆様方に深く感謝いたします。

(あずきざわ えつこ)

第8回図書館総合展に参加して

資料整備を担当 金田紀子

平成18年11月20日から22日まで、パシフィコ横浜で開催された図書館総合展に行ってきました。この総合展は毎年秋に開催されており、今年で8回目となります。会場では、130近くの企業・団体がブースを出展し、新商品・サービスの紹介を行っていました。場内はあらゆる図書館種の方はもちろん、関連企業、個人等たくさんの方が集まり、活気づいていました。

展示ブースでは、和紙の展示から最新のデジタルコンテンツまで、多彩なメディアやサービスに触れることができ、図書館業界に関わる業種の幅広さを感じました。また、普段はメールや電話でしかやり取りをしない業者の方とお会いして、情報交換をすることができました。

この総合展では、いま図書館界で話題となっているテーマを中心に、50を超えるフォーラムが開催されていました。私はその中で「リポジトリ」と「電子ジャーナル管理ツール」関連の6つに参加しました。

どのフォーラムも大変興味深いものばかりでした。リポジトリについては、これから取り組む機関が多いためか、基礎知識や先行導入事例を紹介する内容が多かったように思います。

電子ジャーナル管理ツールの新商品紹介では、海外の本社から講師を招いて、熱のこもったプレゼンテーションが行われました。実際に商品を開発した方の講演を聞くことができたのは、とても貴重な機会でした。

ネットワーク時代の今日、私達図書館員をとりまく環境は大きな変革の時を迎えています。インターネットで誰もが手軽に情報を入手・発信できる環境の中で、図書館が果たすべき役割は何なのか。図書館員一人ひとりが柔軟な発想を持ち、常に一歩先を見据えたサービスを考えていかなければならないと、改めて感じたイベントでした。

(かねだ のりこ)



平成18年度シンポジウム 「デジタルコンテンツの創造と発見」

医学情報サービスを担当 吉井紀子

平成18年12月7日、東京田町駅近くにある慶應義塾大学三田キャンパスで開かれた、国公私立大学図書館協力委員会主催の標記シンポジウムに参加しました。国公私立大学図書館協力委員会は、国公私立大学図書館の共通の課題である著作権、電子ジャーナル、相互協力などの解決に取り組み、また、「大学図書館研究」や「大学図書館協力ニュース」を発行している委員会です。

シンポジウムでは3つの講演を拝聴しました。

■グーグル日本社長 村上憲郎氏

「Googleの目指すもの」

■Cambridge Information Group (CIG社)

副会長 Jim McGinity氏

「The Evaluation of Secondary Publishers into E-Meta Data Publishers」

(二次情報出版者からE-メタデータ出版社への進化)

■三重大学教授 佐藤義則氏

「大学図書館における情報探索環境提供の今日的課題—事例研究と考察」

村上社長は、Googleはポータルを目指さず、Web上のリソースとユーザを繋ぐための無料インデックスの役割を果たすと前置きし、Google Scholar, Google Earth, Google Book Searchなどの動向を話されました。McGinity副会長は、CIGのDB製品として代表的なCSAを使い、CIG社の動向を講演。強力な検索エンジンGoogleの活躍は尊敬しているが、同社はDBの品質の確保と文献中の図表等に対するDeep Indexingを行い、DB付加価値を高めると語られました。これに対し佐藤教授は、千葉大と三重大学生の授業3グループにおいて、上記2社の製品—検索エンジンGoogleとCSAのIlluminaシステム、および日本の自然科学の代表的文献データベースJDreamIIの3点を取り上げ、学生による検索とその結果を比較した事例を中間発表として話されました。Google Scholarのヒット率の低さとその原因考察、Illuminaの日本語ヘルプと検索トレーニングの必要性、JDreamIIへの満足度は高いということでした。

今回のシンポジウムでは、DB製品に関する最新の動向に触れることができ、利用教育について参考となる研修ができました。

(よしい のりこ)

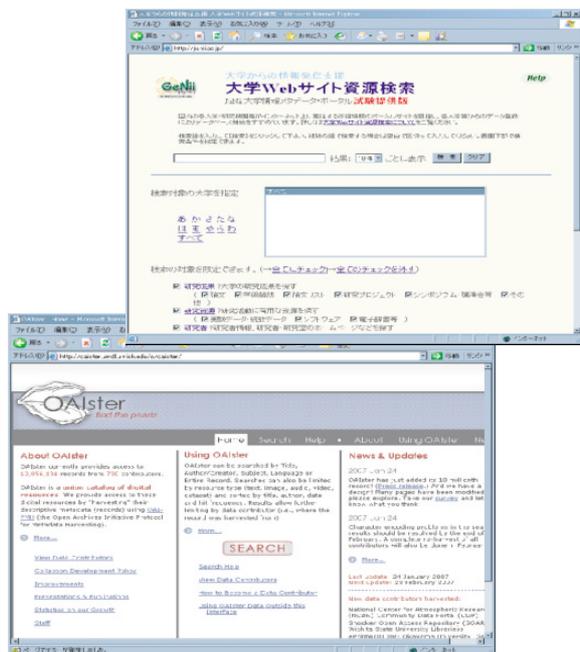
(JuNii大学情報メタデータ・ポータル試験提供版)

平成18年度学術ポータル
担当者研修に参加して

コンテンツ形成主担当
福山栄作

平成18年8月30日から9月1日にかけて、名古屋大学で開催された学術ポータル研修に参加しました。この研修は、情報発信・学術ポータルの構築運用に係る専門的知識の修得が目的とされています。本年度は、機関リポジトリの企画・立案・運用知識を身につける内容になっていました。

機関リポジトリは、平成17年度から国立情報学研究所の委託事業として開始されました。本年度より本学も委託を受けて参加しており、「島根大学学術情報リポジトリ」として、平成19年4月の一般公開に向け準備を進めているところです。



(OAIster)



(島根大学学術情報リポジトリ準備ページ)

機関リポジトリでは、大学等で生産された学術論文等の知的成果物を、電子的に保存公開します。これにより、電子ジャーナルのようにPDF形式で、実際の論文を広く世界に公開することが可能となります。

平成18年6月時点では、国内19校、世界では704機関が機関リポジトリを公開しています。本年度国内では、57大学が委託事業に参加していますので、次年度以降より多くの学術論文を利用することが可能となります。

各大学により公開される機関リポジトリは、各大学のページで検索することもできますが、国立情報学研究所のJuNii(<http://ju.nii.ac.jp/>)により国内の機関リポジトリの検索を行えます。また、世界のリポジトリを検索するためには、OAIster(<http://oaister.umdl.umich.edu/o/oaister/>)が利用できます。

また、より一般的な検索エンジンであるGoogle(<http://www.google.com/>)や、Google Scholar(<http://scholar.google.com/>)での検索も可能となってきています。

現在、リポジトリ公開が行われているものは、各大学発行の紀要類掲載論文が多いようです。また、海外学術誌掲載論文も増えてきています。これは、海外出版社の多くが、著者最終稿のリポジトリ掲載を認める判断をしているためです。国内学術雑誌については、現在整備が行われつつあるという状況ですが、リポジトリによる公開を公式に認めるところも出てきています。今後、より多くの論文がリポジトリにより利用できる環境になると思います。(ふくやま えいさく)

最後に、本学教員のみなさまへ

先生方の作成された論文原稿を保存しておいてください。上でも少し触れていますが、リポジトリ公開の条件に、著者最終稿の公開を認めるところが殆どになってきています。ワープロ等で作成されている場合、簡単な操作で公開用PDFが作成できます。今後、登録方法の説明時に合わせて、PDFファイルの作成方法の説明も行う予定です。

図書館からのお知らせ



● 「2006 学生選書ツアー」を実施しました ● (資料整備主担当)

7月31日、学生選書ツアー「書店で選ぶお薦めの100冊」を昨年に続き実施しました。松江キャンパスから12名の学生が参加し、読みたい本、図書館に置いてほしい本、お薦めの本などを実際に市内の書店で選んでもらいました。

今回は小説を中心に、多種多様な本が選ばれました。図書館に置く本というと敷居が高いようですが、普段は高くても手が出ない本が買って嬉しかった、面白い体験だったとの感想が寄せられました。詳細は、図書館HPの「広報 > ブログ」をご覧ください。



● 学推会から図書を寄附していただきました ● (資料整備主担当)

8月に島根大学学生生活推進会(学推会)から、学生用図書117冊を寄附していただきました。厚く御礼申し上げます。学生の皆さんの目線で選書していただいたものですので、どんどん利用してください。

● シーボルト授与の医師修業証書のレプリカを作りました ● (利用サービス主担当)

シーボルトから西山砂保に与えられた修業証書のレプリカを、本館及び医学部で作成しました。シーボルトは江戸時代末期、長崎郊外鳴滝の地において数多くの門弟を抱え、蘭学、蘭方を教え、実際に病人の治療も行いました。また、西山砂保は、神門郡萩原村(現出雲市萩原町)出身の医師で、19歳のとき京都で古医方を、30歳で紀州の華岡青洲に学び、更に44歳でシーボルトの教えを請うという生涯探究の人でした。

この修業証書は今から180年前のもので、古オランダ語で書かれており、本物は文字も蝕印も劣化がすすみ、ほとんど読むことができない状態です。確認されているものは、山口の岡泰安、徳島の高良斉の3人のみで、たいへん貴重なものです。本館では1階新聞コーナーに展示しており、**来館の折には是非見ていただきたい「学舎のお宝」**です。医学部では、2006年大森文庫展示会において披露しました。

● 附属中学生が図書館ボランティアに来てくれました ● (利用サービス主担当)

10月11日、11月1日の2日間、附属中学校3年生4名の生徒さんが「総合的な学習」の一環として、本館図書館業務の体験を兼ね、お手伝いに来てくれました。

不用図書のリユース市を間近に控え、担当係ではネコの手も借りたい状況だったこともあり、大助かりでした。また、カウンターでは図書の貸出・返却業務のほか、書庫内資料の配架、閲覧室の図書整理を手伝ってもらいました。いつもの職員と違い、初々しい生徒さんの対応に、利用者の中には笑顔で声を掛けていく人もいました。

何を手伝ってもらおうか、ちゃんとできるのかといった心配は杞憂に終わりました。皆さんしっかりしていて、こちらの指示にテキパキと動いてくれました。肉体労働や気疲れで大変だったと思いますが、職員は爽やかな気分を味わうことができた2日間でした。

● 中国四国地区大学図書館研究集会を開催しました ● (総務・会計主担当)

10月19日、20日の2日間、島根大学附属図書館が当番校となり、松江テルサを会場に「学術コミュニケーションの変容と大学図書館のマネジメントー新たな展開に向けてー」をメインテーマとした研究集会を開催しました。中国四国地区の国公立大学から21大学45名(島根大学を除く)の参加があり、大学図書館の新たな取り組みである機関リポジトリに関する講演、パネルディスカッションを中心に、今日的な図書館の諸問題について、活発な討議が行われ、意義深い研究集会となりました。

● **第2回図書館蔵書リユース市を開催しました** ● (資料整備主担当)

11月2日～4日の3日間、大会会館3階大集会室において「第2回図書館蔵書リユース市」を開催しました。

本館で廃棄した図書約4,300冊を対象に、1冊105円で販売しました。今回は専門書のほかに事典・辞書類が多数あり、学内教職員、学生だけでなく、一般市民の方もたくさん来場していただき、予想を上回る盛況となりました。昨年度に引き続き、企画・運営・後片付けまで学生ボランティアのみなさんが頑張ってくれました。



● **「八雲文庫室」を開設しました** ● (総務・会計主担当)

八雲文庫室は、松江ゆかりの文学者・作家である小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）に関する作品、研究書、関連資料などのコレクションを一堂に集め、本館3階の一室にまとめて常時閲覧できるようにしたものです。

これらの資料は、これまで書庫と貴重資料室に所蔵されていた約1,000点の貴重なものです。部屋には閲覧席も用意してありますので、資料を使った研究にも便利です。なお、利用時間は、平日の8:30～17:00です。

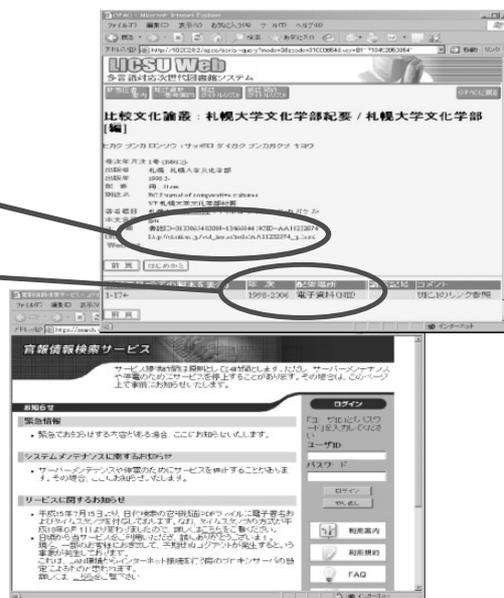
● **大学紀要の一部でオンライン版が利用できます** ● (資料整備主担当)

館内の配架スペース不足解消のため、電子版が利用できる資料について、廃棄を進めています。今回はやむを得ず、大学紀要の一部と官報を廃棄しました。廃棄したものはすべて、Web上で全文を閲覧することができます。

廃棄した大学紀要は、OPACに全文データへのリンク (URL1) をつけています。

所蔵データの所在は「電子資料 (NII)」となっています。

また、図書館HPの Webデータベース一覧 > CiNii論文情報ナビゲータ からも利用できます。



● **官報のオンライン版が利用できます** ●

官報についても、Web上のデータベースが利用できます。図書館HPの Webデータベース一覧 > 官報情報検索 をご覧ください。

● **オンデマンド講習会を行っています** ● (学術情報サービス主担当)

本館では、授業の一部やゼミ単位、学生・教職員などのグループ単位で、ご要望に応じて開催するオンデマンド講習会を実施中です。2名以上であれば随時対応しますので、お申し込みをお待ちしています。

詳細は図書館HPの 利用案内 > 学術情報リテラシー > 本館講習会 をご覧ください。

● **鳥根県内図書館横断検索システムが稼働します** ● (学術情報サービス主担当)

2月23日、本学において鳥根県立図書館及び松江市立図書館と相互協力協定を締結しました。鳥根県及び松江市との包括的な連携協定に基づき、図書の相互貸借など、相互の図書館協力を推進しようとするものです。

協定の締結に併せ、開発を進めてきた鳥根県内図書館横断検索システム（横断OPAC）を公開しました。県内の公共図書館、大学図書館などの蔵書を1度に横断的に検索でき、県内の図書館間の相互協力を進める上で強力なツールとなるものです。横断OPACについては、次号で詳しくお知らせします。

● **複写機が新しくなります** ● (総務・会計主担当)

本館では、現在文献複写用として1階にコイン式複写機を2台、2階にゼロックスカードによる複写機を3台設置していますが、平成19年4月から、従来の複写機に替えてプリペイドカード方式の複写機を導入することになりました。これにより、学生も2階での複写が可能となります。また、1階の複写機については、1台をプリペイドカード方式とし、コイン式も1台残します。

プリペイドカードは、従来の島根大学生協複写機用のものと共通です。カードは生協の売店で販売していますが、自動販売機(1,000円のみ)を館内(1階)に設置しますので、土・日でも購入できます。

なお、法人経費による複写については、事務簡素化のため従来のゼロックスカードによる予算振替方式を廃止しますので、同様にプリペイドカードを購入していただくことになります。

	複写機	利用対象	備考
現在	1階 コイン式2台	学生・一般	モノクロ
	2階 ゼロックスカード式3台	法人経費用	カラー1台 モノクロ2台
平成19年 4月～	1階 コイン式1台 プリペイドカード式1台	学生・一般	モノクロ
	2階 プリペイドカード式2台	学生・一般 法人経費用	カラー1台 モノクロ1台

● **学外の個人からの文献複写申込みを受け付けます** ● (医学分館)

医学分館での複写物の提供は、これまで他機関の図書館・室等を通じた申し込みに限ってききましたが、平成18年10月から、所属する図書館を持たない学外の個人の方からの複写申込みも受け付けることにしました。

複写料金(モノクロ1枚35円/カラー1枚80円)+送料(80円～160円程度)が必要です。郵便為替による先払いをお願いします。複写対象資料は、医学分館の所蔵資料(研究室所蔵の資料は除く)に限らせていただきます。

詳しくは、図書館HPの [申込み](#) > 医学分館(出雲)への申込み をご覧ください。

● **島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会を開催しました** ● (医学分館)

第15回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会を、11月20日に松江市立病院において開催しました。

加盟館22機関のうち、14機関から19名、オブザーバーとして2機関より3名、合計22名の出席がありました。盛りだくさんの内容に参加者は熱心に耳を傾け、充実した総会となりました。

《プログラム》

1. 講演 「松江市立病院の医療情報システムの概要」
2. 情報交換 各機関の近況報告
3. 協議
 - 1 医図懇雑誌所蔵目録のホームページ掲載について
 - 2 メディカルオンラインのトライアル推進について
4. 発表
 - 1 「島根医学」の著作権処理
 - 2 島根大学附属図書館医学分館における学外者個人への複写サービス開始
 - 3 松江市立病院図書室の概要



[表紙写真 落合輝満]

島根大学附属図書館報「淞雲」 第7号
平成19年2月発行

発行 島根大学附属図書館広報編集チーム
本館 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089
医学分館 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095

